

日本道路が2029年に迎える創立100周年事業の一環として茨城県土浦市で建設を進めてきた

「土浦テクノBASE」が完成し写真、9日に開所式を開いた。社員研修施設、技術研究所、機械センターを統合し、工法や製品、歴史などのショールームも備えた

日本道路

「技術の日本道路」を体感できる情報発信拠点となる。

土浦テクノBASEは、東京都大田区の技術研究所、茨城県つくば市の東京機械センターを移転す



石井社長

土浦テクノBASEが開所式

るとともに、新入社員研修などで活用する宿泊棟を統合した複合施設となる。屋外エリアには、同社が



技術体感する情報発信拠点

開発した透水性舗装などの各種舗装や特殊舗装となる「快適歩走」「木煉（もくれん）」などを展示。大規模なテストヤードも確保し、顧客の要望に合わせてさまざまな試験施工を行う予定だ。

規模は、研究研修棟がS造3階建て延べ3777平方メートル、宿泊棟がRC造3階建て延べ1761平方メートル、整備棟がS造2階建て延べ1140平方メートル、機械格納庫が骨格膜構造・S造平屋建て3191平方メートルとなる。所在地は土浦市おつ野1-4-1の約4・1畓。研究研修棟は、1階に「心臓部」となる実験室を配置するほか、エントランスに入ってすぐにショールームを設け、舗装工事が完成するまでの一連の流れをミニカーで

分かりやすく紹介するほか、同社が開発した舗装のサンプルや事業内容を表す模型などを展示し、若手や来客者に伝えやすい内容とした。

2階吹き抜けにある中央階段は、「日本道路の森」がある高知県梶原町の木材を使用し、椅子のよつに腰掛けて社員の会話が自然と始まるコミュニケーションスペースとした。3階には100人を収容する研修室やフリーアドレスの執務室などを設けた。

直会（なおりい）で、石井敏行社長は「当社の技術、歴史、社会貢献活動などを紹介するほか、屋外に当社のさまざまな舗装を施工し『情報発信拠点』とした。次世代の担い手育成に向け、地元の小中学校などに職場見学や体験学習の機会を積極的に提供したい」と抱負を述べた。

